

## 令和6年度 学校評価（教職員の自己評価）集計結果

青森県立青森聾学校

回収率100%（全22名）※R6年11月時点

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を○で囲んでください。

4 そのとおりである    3 おおむねそのとおりである    2 やや違う    1 違う

NO	評 価 項 目	評 価 人 数	R 6 平均	※R 5 平均
<b>1 授業の充実について</b>				
1	自分は、幼児児童生徒の実態を的確に把握し、特性や教育的ニーズに応じた指導計画の作成を行っている。	4 3 2 1 8 13 1 0	3. 3	—
2	自分は、幼児児童生徒や保護者と十分に話し合い、ニーズを受け止めて指導に取り組んでいる。	4 3 2 1 11 10 1 0	3. 5	3. 3
3	自分は、幼児児童生徒のよさや得意なところを見つけ、自信をもって取り組めることを増やすよう努めている。	4 3 2 1 13 8 1 0	3. 5	—
4	自分は、幼児児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように、興味・関心を大切にした「分かった、やってみよう」と思える授業づくりに取り組んでいる。	4 3 2 1 10 11 1 0	3. 4	—
5	自分は、幼児児童生徒が自分の意思でより良い学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成に取り組んでいる。	4 3 2 1 7 13 2 0	3. 2	—
6	自分は、キャリアパスポート等を活用し、幼児児童生徒が将来の夢や希望をもてるよう指導している。	4 3 2 1 ※3 13 1 0	3. 1	2. 9
7	自分は、幼児児童生徒に課題解決させる経験を通して、他の人と話し合うことや協力することの大切さを実感できるようにしている。	4 3 2 1 10 11 1 0	3. 4	3. 3
<b>2 言語力の育成について</b>				
8	自分は、幼児児童生徒の日本語獲得のために、言葉の意味を確認したり、読み書きをして表現する機会を作ったりしながら、言語力の育成に努めている。	4 3 2 1 12 9 1 0	3. 5	—
9	自分は、聴覚障がい児にみられる傾向を念頭に置きながら、例えば、こどもの発言の後に正確な日本語を確認する等、言語力の育成に努めている。	4 3 2 1 9 11 2 0	3. 3	—
10	自分は、幼児児童生徒の、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努めている。	4 3 2 1 8 13 1 0	3. 3	—

<b>3 安全で安心な学校づくりについて</b>				
1 1	学校は、幼児児童生徒が自分の健康と安全を確保できる知識と実践できる力の育成に努めている。	4 3 2 1 14 8 0 0	3. 6	3. 3
1 2	学校は、幼児児童生徒が安全に生活できる施設設備の維持充実と地域や保護者と連携した安全・防犯対策に努めている。	4 3 2 1 9 13 0 0	3. 4	3. 4
1 3	学校は、安全な給食・舎食の提供に努めている。	4 3 2 1 19 3 0 0	3. 9	3. 8
1 4	学校は、緊急時の連絡・避難に対応できる体制づくりを行っている。	4 3 2 1 16 6 0 0	3. 7	3. 6
1 5	学校は、いじめの未然防止と、積極的ないじめの認知を行い、組織的に対応している。	4 3 2 1 15 7 0 0	3. 7	3. 6
<b>4 保護者や地域から信頼される学校について</b>				
1 6	学校は、保護者に教育活動のねらい・内容・結果について説明し、連携して教育活動を進めている。	4 3 2 1 12 10 0 0	3. 5	3. 4
1 7	学校は、学校運営協議会を設置し、保護者・地域の学校運営への参画の推進を通して学校づくりを進めている。	4 3 2 1 14 8 0 0	3. 6	3. 4
1 8	学校は、ホームページを活用した情報発信を積極的に行っている。	4 3 2 1 20 2 0 0	3. 9	3. 6
<b>5 地域における特別支援教育のセンター的機能について</b>				
1 9	学校は、地域における教育相談・支援活動を推進し、地域に貢献する学校づくりを進めている。	4 3 2 1 15 7 0 0	3. 7	3. 6
2 0	学校は、東青地区特別支援連携協議会の事務局として、関係機関との連携に努めている。	4 3 2 1 15 7 0 0	3. 7	3. 5
<b>6 研修の充実について</b>				
2 1	学校は、職員の研修の機会を確保し、校内研修や校外研修、校内研究に取り組んでいる。（手話学習会、ミニ学習会を含む）	4 3 2 1 16 5 1 0	3. 7	3. 6
<b>7 全教職員の協力による学校づくりについて</b>				
2 2	学校は、仕事と生活の両立ができるよう職員間で協力し合い、互いに助け合っている。	4 3 2 1 6 14 2 0	3. 2	3. 2
2 3	学校は、多忙化解消に向け、業務改善できるよう見直しをしている。	4 3 2 1 3 12 7 0	2. 8	2. 9
2 4	学校は、意見の相違があっても協力しあっている。	4 3 2 1 5 12 5 0	3. 0	3. 0

※R5の評価欄については、評価項目が今年度と同様の内容である場合のみ記載している。

※設問6はキャリアパスポートを使用している学部（小～高）の教職員の評価の平均を記載した。

## 意見や要望等

- アンケートや起案等でもっとペーパーレスを実施した方が良いのではないかと。
- 学校、寄宿舎ともに、子どもたちの前で話すこと（話題や言葉選び、話し方等）と、そうではないこと（話すべきではないこと、話す必要がないこと）を意識的に区別した方がよいのではないかと考えることがある。子どもとの心理的な距離感の問題か、聴覚障がいがあるから聞こえない、わからないと思っているからなのかはわからないが、気になる場面がたびたびある。（それをその場で言えない自分にも課題があると思っています。）
- 定期的な学部主任会議を設定して、学部間の共通理解や協力体制作りをした方がよいと考えます。